



コロナ禍二度目の秋 日本語ボランティア教室の私たちは...

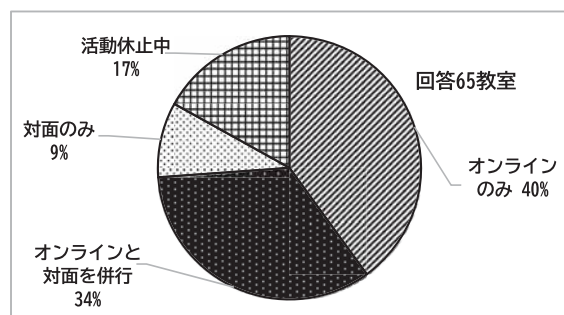
2020年2月以降、新型コロナウイルス感染拡大により、多くの日本語教室が活動を休止しました。その後、対面活動を再開した教室もある一方、21年9月現在、活動休止中の教室もあり、「教室を閉めました」という残念なお知らせも数件届きました。活動を継続するために、多くの教室がオンライン支援を取り入れました。

TNVNでは会員の皆さまの活動状況や、オンライン支援の問題点などについてアンケートを実施しました。集計結果をご報告いたします。ご協力ありがとうございました。

■アンケートについて ○調査期間：2021年9月5日～21日 ○調査方法：グーグルフォーム送信
○調査対象：正会員85団体のうち、メール利用に同意いただいている80団体 ○回答57団体（65教室）

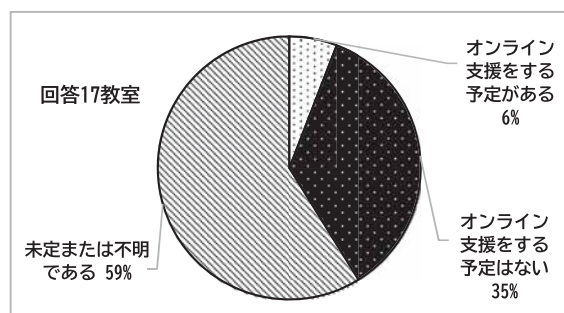
問1 2021年9月時点の活動状況は どうですか？

回答：65教室
 オンライン支援のみ 27教室
 オンラインと対面を併行 21教室 } 48教室 (74%)
 対面のみ 6教室
 活動休止中 11教室



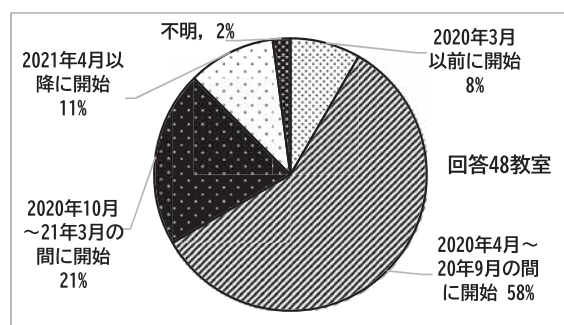
問2 対面のみ又は休止中の教室は、 オンライン支援の予定がありますか？

回答：17教室
 オンラインの予定は未定/不明 10教室
 オンラインの予定はない 6教室
 オンラインの予定がある 1教室
 ※活動休止中の教室から「コロナ禍での適切な感染予防対策を知りたい」などの意見が寄せられました。



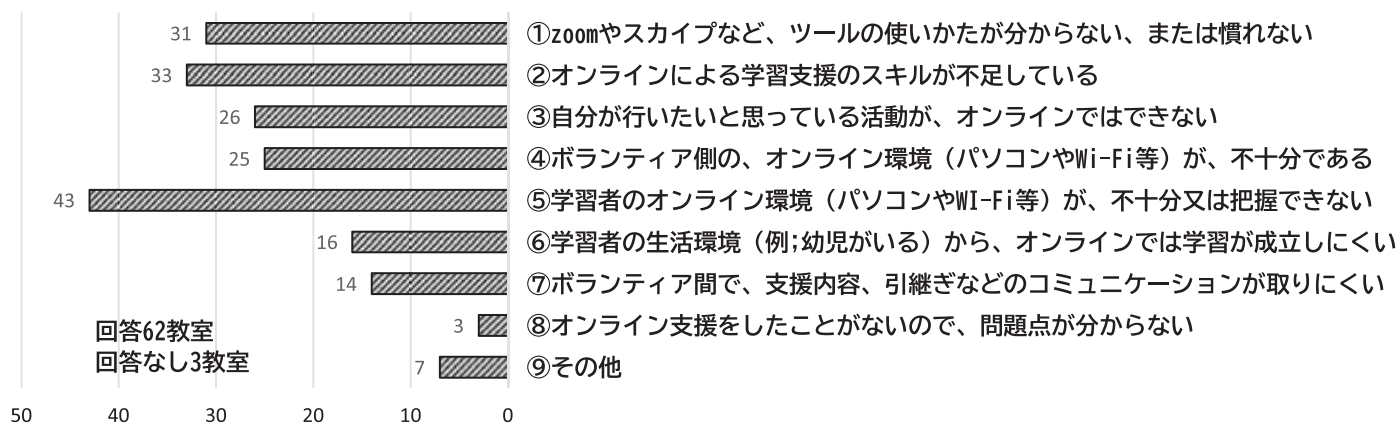
問3 オンライン支援をいつから始めましたか？

回答：48教室
 2020年3月以前に開始 4教室
 2020年度中に開始 38教室 (79%)
 2021年4月以降に開始 5教室
 ※「コロナ禍の中で、(対面活動はできないけれど) オンラインで繋がることで、日本語教室が学習者にとって少しでも不安な気持ちを和らげてもらえる場となるよう、ボランティア一同努めています」との声が寄せられました。



問4 オンライン支援の問題点は 何ですか？(いくつでも)

オンライン支援をしている48教室からと、オンライン支援をしていない17教室のうち14教室から、回答が寄せられました。



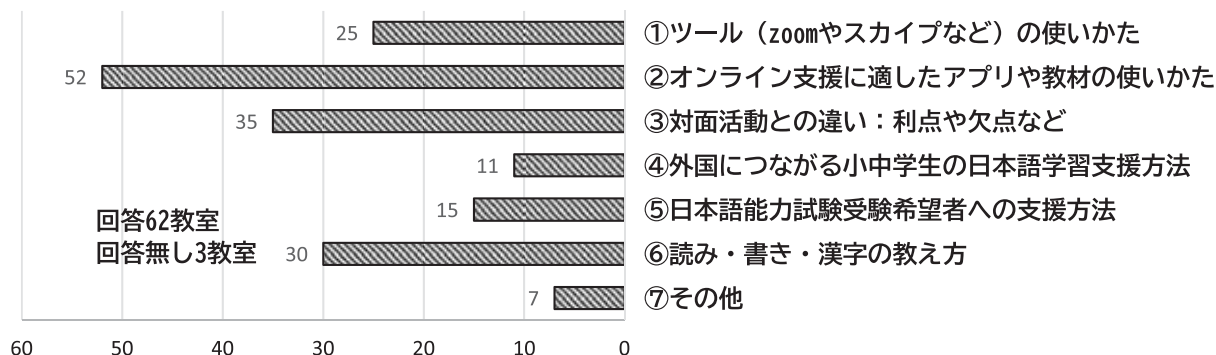
※⑨その他の具体例

- ①学習者の様子・反応が分かりづらいことがある。
- ②毎月の会費が全くもらえない。

問5 オンライン日本語学習支援に関するスキル講座が実施 されたとしたらどのような講座を希望しますか？(いくつでも)

※②番には、現在オンライン支援に取り組んでいない教室からも12件の希望があります。

※zoomでは相手の手元が見えないので、漢字学習などは特に困難を感じるためか、⑥番の希望も多くなっています。



問6 問5で「⑦その他」を選んだ方は、 希望講座を具体的に書いてください。

- 1.担当している学習者のレベルにより希望が異なるので、レベル別に講座を開催して欲しい(2教室)
- 2.日本語入門学習者への支援方法(2教室)

◆問7で、教室として使用する公共施設(公民館等)に、Wi-Fiの設備があるかを質問しました。

問8で、TNVNに対する意見や要望を自由に書いていただき、たくさんの回答を頂きました。

紙面の都合上、問7と問8は別紙にてご報告いたします。

■今回のアンケートから

オンライン支援は、早くから多くの教室で行われているが、スキル不足を感じている支援者が多く、オンライン支援スキル講座の受講、オンライン教材やアプリの紹介・使いかた学習の希望が多いということが分かります。

コロナウイルスは多くの変異株が生まれており、今後はウイルスと共存して行かざるを得ないと言われています。

日本語教室活動を継続するためには、オンライン支援に取り組むことが求められています。

武蔵野市国際交流協会(MIA)

日本語コースの活動について

寄稿 橋本 純子 日本語学習支援コーディネーター

MIAでは、地域に暮らす日本人、外国人がその地域の構成員として、市民として、対等な関係を作れるよう、様々な工夫してきた。この対等性を可視化できるよう1995年頃から「日本語ボランティア」は「日本語交流員」（以下「交流員」）と呼ばれている。これは「教える/教えられる」という概念ではなく、「日本語で交流する人」という意識での命名だった。2000年頃から「日本語教室」をやめて「日本語コース」に、日本語を学びたい外国人は「生徒」や「学習者」ではなく「参加者」と呼ぶように決めた。「交流員」と「外国人参加者」も「～さん」と呼び合っている。また、交流員の活動希望者には必ず「日本語交流員養成講座」を受講してもらい、この「対等な関係」を理解してもらえるよう努めている。今では外国出身の交流員もいる。

日本語コースは、週1回決まった曜日・時間に集まり複数で人間関係をつくる教室活動と、交流員と外国人が1対1で個別に交流するマンツーマン活動を組み合わせている。

教室活動では、参加者が目的別に小グループで活動するが、そのグループにとどまらず、母語や共通語を使って、コース内の多くの参加者たちと良い関係を作りたいとの願いから「お茶の時間」を設けた。お茶の準備や片付けを参加者と交流員が協働することで、全員がボランティアとしてコースを作っているということの意識化もはかった。カタコトの日本語でテキパキと働く姿や、誰かと楽しみを分かち合おうという参加者の姿勢から、彼らが地域市民にむけた料理教室などに踏み出し、文化を発信できるよう、周囲の仲間たちが後押しをすることもある。異文化の中で自信を持てずにいた参加者がコース関係者や地域住民と関わりながら自己肯定感を高め、その後どんどん変化していく様子も、日本

語コースに喜びをもたらしている。

日本語コースで知り合った仲間たちは楽しい時だけでなく、困った時にも助け合う仲間になる。タイ出身の女性が妊娠時、教室活動中に体調を崩した時はタイ語が話せるメンバーが（タイ人も日本人も！）何人も連携して動き、彼女を無事に自宅まで送り届けた。中国出身女性の日本人のご主人が亡くなった時は、タイ、インドネシアなど出身国の違う仲間たちとその日本人のご主人が集まり、慰め、助け合っていた。日ごろから信頼関係で繋がっていたからこそ、いざというときに頼れる仲間となったのだろう。

交流員と参加者は親しくなるにつれ、喜怒哀楽を出し合うことが多くなる。子育て中の親たちのグループでは、話しているうちにお互いの頑張りに共感し、涙していることもあった。親や親せき、幼なじみとも離れて子育てしている外国人の親たちは、一度MIAを離れても、また戻ってくることも多い。MIAを「実家」とまで呼んでくれる参加者もいた。それは日本語コースの参加者同士、参加者と交流員が対等な関係を築いてきたからではないか。

日本語コースには子ども部屋（保育室）を設けているコースもある。スタッフには日本人だけでなく外国人もいる。親子の母語で子どもや親に語りかける外国出身スタッフがいると同時に、子どもたちに優しく日本語で声をかける日本人スタッフもいる。小さな子どもたちの間でも、多文化共生社会が芽吹いているかのようだ。

日本語コースには「日本語を学ぶ」だけでは作れない関係がある。そこは外国人も日本人も自分にできることを持ち寄り、互いの文化を尊重し、共に育む場となっている。このような関係が広い地域、多くの市民に広がっていくことを願っている。



保育室でも多文化の優しい関係を育んでいます



みんなで子育てについて情報交換をしています

駅で見る 「さまよえる外国人」 漢字表記編

日本語教師 金子広幸

今回は駅の表示のことについてお話ししました。

「外国語に翻訳すること」ではなく、「日本語につなげること」がポイントでした。

今号では、その駅名表示などに見られる、漢字表記のことで。

以前、台北に行ったときのこと、市内を走る新交通システムの扉の表示に「勿倚靠車門」と書いてありました。それを見て同行した同僚がこう言っていました。「中国語は習ったこともないし、もちろんこの漢字をどう読むかもわからないのに、意味がなんとなく伝わる。これってすごいことだよね！」…遠い昔国境を越えて文物をやりとりしていたときの名残が、今もこの東アジアに残っているということですね。…確かに漢字は便利、すごいことだ！…この意味は「ドアに寄り掛からないでください」です。

では、日本語や中国語に挑戦する人たちが、お互いの漢字を見てどう「さまよって」いるか、両側から見て

みましょう。地域の支援をなさる方にはこの「両側から見る」考え方は大切です。

■ポスターの中国語表記を眺めてみよう

中国語には2種類の表記の体系があります。でも、簡体字と繁体字の違いだけでなく、ちょっとずつ違います。お気づきですか。

都営交通の「安心して鉄道をご利用ください」のポスターの中の記述を見てみましょう。

「係員の感染防止対策を行っています」の中国語訳はそれぞれ

簡体字：铁路职工实施感染预防措施（日本の字体に直すと「铁路职工实施感染预防措施」）

繁体字：鐵路人員執行感染預防措施

（日本の字体に直すと「铁路人員執行感染预防措施」）

同じ中国語でありながら、社会体制の違いから少しずつ違う語が使われ始めているのです。

漢字の言葉が持つニュアンスが、日中間はもとより、実は同じ中国語の中でもそれぞれの地域で違うんですね。

■漢字の筆画のこと

日本語の漢字の筆画のことで「さまよう」学習者がいます。これは漢字圏の学生だけではありません。とても細かい話なんですが…

駅名表示にもよくある「衣」「展」「崎」を例に挙げて日本の字体と簡体字とくらべてみましょう。図1をご覧ください。上段が私の手書き、中段が日本字体、下段が簡体字です。

手書き

日本字体

簡体字

衣	展	崎
衣	展	崎
衣	展	崎

図1

日本の「衣」は、教科書体以外のゴシックや明朝体などの活字では、第4画目の跳ねるところに別の1画がついているようにデザインされていて、「展」も同様です。さらに、よく見ると「衣」の上の点の方向も異なります。その違いに気づく中国の学生はたくさんいます。

「山へん」の左下の部分は、第2画目の角にあたるので、「L」のようになるはずが、日本の字体はよくみると下に飛び出しています。

この辺、漢字を教えていると、全世界の人から質問されます。日本で使われている漢字の活字体と、私が書く手書きが違っているからです。欧米の学生だけでなく、漢字を書くことに不慣れな韓国の学生も目を白黒させています。実は、簡体字を使っている中国では、1950年代に実際の字画と活字を一致させる政策をとり、その差は小さくなっています。みなさんもどこかで中国語の簡体字表示を見たら日本の字体と比べてみてください。「春」「人」「入」などに差があります。

新しい元号「令和」になりましたが、「令」の下部分を「マ」と書くかどうかで、日本語を学ぶ学生たちも、そして日本の皆さんも迷ったのではないのでしょうか。ちなみに手書きにする場合は「マ」でOKですが、活字で見る字体と手書きが異なるのは、確かに不思議といえば不思議です。

さて駅の話から少し離れて…

■読み方のバラエティ

熱心に学んでいる学習者からは「細胞」は包「ほう」が字画に含まれるのに、なぜ「ぼう」と読む？」などと質問されます。「同胞」では「ほう」なのに。…思えば、中国語でもそれは同じで、「包」「飽」「泡」「抱」「跑」も、同じように漢字の字

体が似ていても、それぞれ発音も声調も異なるのです。日本語では全て「ほう」と読むので、私もよく周りの中国語話者に「どうして違う？」と絡みました。

ノンネイティブはいろいろ気づくし、文句も言いたくなるんです。この辺で「覚えろ！」と頭ごなしに言われると本当に腹が立ちます。

私が勤めていた大学は前期「後」期制で、近くには「後」楽園駅がありました。せっかく漢字のクラスで「午後は「ごご」だから「後」は「ご」と読む」と習っても、「こう」と読む例が周囲に多くあって「さまよう」人がたくさんいました。おまけに「後」の簡体字は「后」なので、「これは読み方が違うから、違う2つの漢字ですか」と質問されました。

学生に「春休みどこに行った？」と聞いたら「すみません、地名が読めないんです。福岡県の…えーと…博士のハカ…」…？福岡県にそんな有名な博士の墓なんてあったかなあ？？と考えていたら、彼が行ったのは「博多」でした。このハカ、実は音読みです。

日本語の漢字にはこのほかに訓読みというシステムがあり、加えて例外的な読み方も多く存在します。先述の後楽園の乗り換え駅は「春日駅」です。日本の方だったらすぐ読めますが、「春休み」を「かすやすみ」と

言っていた学生がいました。…ね？難しいでしょう？

学生さんたちは身の回りのものから漢字の読み方を覚えていくんですよ。私が言いたいのは、日本語教師や地域支援者にはもっと広いアンテナが必要だということです。ネイティブ（母語使用者）には、気づきにくい点があるのですから。

さて、今日も今日とて、学生さんたちは相変わらず駅名表示の前で「さまよって」います。

日本語社会で暮らす「さまよっている」外国人市民と日本語をつなぐ役割の地域支援の皆様には、ぜひこの取り止めのないエピソードの数々を知っていただきたいと考えました。私たちは難なく取り過ごしてしまっていることに、あえて心をとめるのはとても大切なことだと思います。

さしあたって…私が心がけていることをご紹介します。

●漢字の書き方や読み方にはより敏感に。

●その人に必要かどうかを考えて。

●一点一画をおろそかにせず、しっかり楷書で。

…お試してください。



はじめまして！
運営委員です

Nice to Meet You

現在、杉並区のLTC友の会に所属しています。主な生育地は愛媛県ですが、仕事の都合で2011年から東京都に在住しています。

日本語ボランティアを始めたのは、某地方都市に住んでいたときでした。市内に日本語を教えるボランティア団体は2つで、私が所属した団体では、専門コーディネーターや日本語教師資格保持者が関わることはなく、残念なが

nice to meet you

安藤 亜有美

LTC日本語の会（杉並区）

ら入門者講習会もありませんでした。市内に養成講座420時間を受けられる学校也没有から、私のようなボランティア初心者にとっては、ネットやテキスト頼みの、なかなか厳しい船出となりました。

では東京はどうでしょうか。まずTNVN所属の100近い団体の数に驚愕しました。団体によっては、現役の日本語教師や語学の専門家が関わりを持つことも多いと聞きますし、スキルアップのための講習会もあちこちで開催されています。私の目から見て、東京の日本語ボランティアの置かれた環境は、



多様性と利便性という意味で、とても恵まれています。

TNVNが結成された目的はボランティア団体の「情報交換や活動の活性化を図る」こと、とあります。この首都・東京ならではの環境の中、その役割を踏まえながら、微力ながらお手伝いさせていただきます。来年3月まで、どうぞよろしくお願いいたします。

nice to meet you

大野 敏宏 すみだにほんごボランティア21（墨田区）

すみだにほんごV21は1992年に墨田区の日本語ボランティア養成講座を受講された方々が、翌93年に立ち上げました。

今もこうして団体があるのは、地道に活動を継続された先輩方、場所を提供していただいている“すみだボランティアセンター”があったからと思っています。感謝です。

すみだにほんごV21は月曜漢字クラス、水曜昼クラス、水曜夜クラスの3つの教室があります。それぞれに特色がありますが、共通していることは、敷居が低く誰でも気楽に参加できる温か

い雰囲気の教室です。

今は新型コロナの感染症拡大から月曜漢字クラスと水曜昼クラスは活動を一時休止していて一部のボランティアがリモートでの学習をしております。

私は世界の国旗の制作販売をしております「外国から日本に来てくれるからこそ成り立つ」商売です。「何か外国のかたにお返しできないかなあ」と思って日本語ボランティアを始めました。日本語学習の何たるかも全く知らないままに戸惑いもたくさんありました。

それでも良き仲間に助けられ学習者さんから色々なことを教えてもらい、日



教室風景

本語ボランティアの素晴らしさを知りました。

在籍している夜クラスはコロナ禍の中でも対面で開催しておりますが、メンバーお一人おひとりが感染症対策に高い意識を持って活動しています。これからも温かく楽しい雰囲気に参加されるかたを迎えていきたいと思っています。

nice to meet you

小野 美恵子 グッドナイト日本語教室（江東区）

江東区のグッドナイト日本語教室は今年設立20周年を迎えました。日本語を勉強したい人は誰でも受け入れるという会の方針に即し、設立当初は中学生をはじめ、世代や背景など様々な学習者がいました。教室が午後7時から9時までのため、今はビジネスマンや技能実習生が大半を占めています。仕事帰りに疲れているだろうに、その疲れも見せずに一生懸命に勉強している姿にはいつも頭が下がります。

私は子育てが一段落したら、ボラン

ティアを始めようと考え、当時住んでいた家の近くの障害者施設と一緒にパンを作ったり、朗読ボランティアをしていました。日本語学習支援を知ったのは夫の転勤で川崎市に移ってからです。元々外国のことに関心があり、外国人と接することで視野を広げたいと思い、活動に参加しました。しかし、すぐに日本語を教える難しさを痛感し、養成講座に通いましたが、今も学習者からの質問に即座に答えられずに冷や汗をかくことがあります。



桜を見る会（前列中央 小野）

現在はコロナ禍のため、活動を休止していますが、一部のボランティアはオンラインで日本語支援を継続しています。私も専らおしゃべりで終わってしまうことが多いのですが、「また、来週！」と元気な学習者の声に会えなくても、彼らとは繋がっていると感じています。

鈴木 恵司 スペース・アイ代表 (渋谷区)

スペース・アイは、日本で暮らしている外国人と日本語で「おしゃべり」をするボランティアグループです。慣れない異国暮らしに戸惑っている外国の人たちを、「おしゃべり」を通して応援し、互いに交流することで理解を深め、国際貢献をしたいという目的で2003年6月に発足しました。

スペース・アイの「スペース」は活動の「場」を、「アイ」は「私」、「愛」、「相対する」などを表しています。スペース・アイは渋谷区総合ケアコミュ

ニティ・せせらぎを活動拠点として、週1回2時間の1対1の対面での「おしゃべり」を活動の中心にしています。年に4回ほど外国人と日本人が一同に会して、各国の料理を作って楽しむ会やお茶会や着物を着る会など、日本文化を体験するイベント活動も行っています。

2021年9月現在、外国人とボランティアの会員はそれぞれ約60名です。2020年初めより始まった新型コロナウイルスの感染拡大によりスペース・



お習字大会2021年3月

アイも活動を大幅に制限される状況が続いています。ZOOMやSKYPEを利用したりリモートによる「おしゃべり」の試みや、万全の感染対策を施してのイベントの実施など、コロナ禍における安全・安心な活動の模索が続いています。

仁村 議子 NPO法人『IWC国際市民の会』副理事長 (品川区)

IWCの始まりは、38年前、会の創設者である伊藤美里氏が港区で、友人と3人で始めた小さなボランティア団体です。“お料理教室”ばかりではなく、地域の活動に住民として参加したい、という外国から来た知人の声をきっかけに、それならばまずは日本語を学習してもらおうと日本語教室を始めました。当時の名称は「IWC国際婦人クラブ」で、IWCは“International Women's Club”の略称です。

その後、活動場所は品川区に移り、1990年に品川区立の小・中学校に通う外国から来た児童・生徒のためのJSL教室を発足しました。IWCのJSL教室は品川区教育委員会の委託授業であり、

様々な理由で日本で生活することになった子供たちを支援するIWCの活動の中心です。『成人教室』、『高校入試支援教室』や『補習教室』と教室は増え、都立六郷工科高等学校にも日本語学習支援員を派遣しています。

1999年、NPO法人の認定を受け、2005年に名称を現在の「IWC国際市民の会」に改定しました。もはや「婦人」だけの集いではありませんから、IWCは“Interact With Community”の略です。

私は自らの経験から、外国から来た子供たちを支援したいという思いで、1996年に日本語教師として入会しました。教室が増え、会員が変わっても、私



高校入試支援教室 授業風景

たちが日々していることに変わりはありません。他の国、地域から日本に来た人々が、日本人と同様に不都合なく生活するためのお手伝いをして、今日に至っています。

昨年来の感染症拡大に対処する為、現在JSL教室と成人の教室はオンラインと対面の二本立てです。これからも、今この目の前の必要なことに真摯に取り組んでいきたいと思います。

三浦 幸男 こんにちは にほんご 副代表 (練馬区)

私の教室は、毎週土曜日「練馬区役所」の会議室でオープンしており、講師23名と生徒約50名の教室となっています。

現在、コロナでお休みしておりますが、11月から再開の予定となっています。講師陣は、大東代表はじめベテランぞろいです。また、毎年2、3名の新人講師が加入し、バランスのとれた教室と自負しております。

私は練馬育ちで、「ねりまのねり歩き」という団体で、観光ガイドもしており、

毎月区内を案内しています。

現在、私は教室が休みのため教室の生徒や現地に住む外国人にZOOMやラインで簡単な授業や日常会話を教えています。この方式はこのコロナの状況下ではベストだと思います。現地に住む外国人に対しては2年前から教えており、対面と比べると不便な面もありますが、メリットもあります。マスク不要で、口元が見え、発音もキチンと教えられる。教室の再開が遅れても個人的には「大丈夫かな？」と思ってい

ます。

また、運動不足にならぬよう、「ねりまのねり歩き」の新「観光ガイドコース」を作るため、自転車や徒歩で練馬区内を走り回っています。

コロナに負けず、知恵を出して、「国際交流」を図りたいものです。



●2021年度プロジェクト

1. データベース…会員の基本情報（入会申込書のデータ、更新データなど）を一元的に管理し、質の高い情報管理とセキュリティの確保に努めます。会員情報を正しく管理することにより、会員の皆さんへの情報提供が今まで以上にタイムリーに公平に行えることを目指しています。新規会員の申し込み、登録情報の修正、追加などはoffice@tnvn.jpへお気軽にご連絡ください。
2. 講座企画…会員の皆さんに必要な講座を企画します。まず、「オンライン学習支援のための基礎講座」を検討しています。ホームページのお知らせにご注意ください。
3. ホームページ リニューアル…会員の皆さんにいつも読んでいただける役に立つホームページを目指します。「お知らせ」には、お知らせ他、いろいろな情報を掲載します。「イベント掲示板」にはイベント情報ほか、「ボランティア募集」などいろいろな情報を投稿してください。

●新運営委員（113号の運営委員名簿に追加してください。）

坂本 英樹 NPO 法人IWC国際市民の会（品川区）

●「TAMA日本語ネットワーク」再スタートしました！

表記の件、9月25日夜、新メンバーによる第1回例会が開催されました。

2000年発足の情報交換会「TAMA日本語共育ネットワーク」を、もっと気軽に参加できる情報交換の機会として再発進しました。ZOOMを使用したおしゃべりの会です。参加者は9団体13名。参加費無料。役員は日野市国際交流協会の福田博之代表だけ。次回、例会は2022年5月28日夜です。（床呂）

column

「お土産話は何？」

先日私が参加している江東区のクラスで以前教えていたタイ人の学習者から、夫の転勤で東京を何年か離れていましたが、戻ったとのことで、しばらくぶりに連絡がありました。私達のグループでは初級のクラスから中級クラスまで学習していました。今は多文化共生を目的とする企業や、エスニック料理店で働いています。

彼女が働いている会社のホームページを覗くと、ちょっと緊張した顔で彼女が微笑んでいました。ある日私の家に遊びに来た時、なにやらスマホをいじっていたと思ったら、帰った後ふと見ると、まだLINEというものがどんなものかわからなかった私のスマホに、LINEのアプリがちゃんと入っていました。そんな彼女からの久々の連

絡に喜んだのは勿論のこと、「会いたいです。」の言葉で思わずひとりにっこりしました。そして、なにより自然な日本語で書かれた文面を見て、彼女の日本語の成長に少しでも関わることができたことに幸せを感じました。私が日本語を教えていて良かったと、つくづく感じる時です。

私にとって日本語を教えるということとは、学習者が日本語で言いたいことが言えて、日本人が言いたいことが伝わるという、学習者が日本人と誤解のない関係が持てるように、自分ができるところをすることということです。今度彼女と会ったら、住んでいた地方のどんな話が聞けるかととても楽しみです。

(K・S)



東京日本語ボランティア・ネットワーク (TNVN) は都内のボランティア日本語教室のネットワークで、会員からいただく会費で運営している民間の団体です。会員は日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人を、隣人として支援しています。又、TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日午後2時～4時
第5金曜日／休み

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄（東西線・有楽町線・南北線・大江戸線）出口B2b 飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしています。

〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

◆TEL：03-3235-1171

（呼出：金曜日活動時間帯のみ）

◆FAX：03-3235-0050

◆E-mail：office@tnvn.jp

◆URL：http://www.tnvn.jp/

◆郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

◆会員数（2021年11月1日現在）

正会員：85団体

個人協力会員：15名

賛助会員：5団体

◆編集／岡田 美奈子、小川 伶子、神 歩、
床呂 英一、林川 玲子、山内 眞理

◆レイアウト／美巧社